

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔鮮魚〕 （従業員）	・宴会やパーティーは大幅な増加傾向にある。
		スーパー（店長）	・原油値上げの影響も心配であるが、売上は1月以降好調に推移しており、この流れが続く。
		コンビニ（経営者）	・商圏内の競合の影響が徐々に薄れてきているため、先行きに明るさがある。
		コンビニ（店長）	・弁当やおにぎりを中心に売上は前年並みに上昇する。
		家電量販店（経営者）	・相変わらず同業との競争が激しく、利益はとりにくくなっているものの、客との商談では以前に比べ価格のみの交渉は減っており、明るさがみられる。
		自動車備品販売店（従業員）	・インフラ整備や技術向上による新商品を提案すれば、消費者の関心も高まり、購買につながる。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・地場産業の核である製造業、特に機械系が非常に好調なため、その下請も含めて地元経済が上向いている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客の増加傾向はまだ続く。また、婚礼のゲストハウス志向の弱まりなどもあり、増収を見込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・関連のホテルでは台湾、韓国などから観光やゴルフ旅行などの受注が増加しており、先行きは明るい。
		通信会社（営業担当）	・話題のワンセグに対応した携帯電話の新機種が発売されたが、更に今後驚くようなサービスの開始予定がある。
		通信会社（役員）	・県内テレビ局の地上デジタル試験放送の開始を受け、デジタル放送サービスへの関心が高まりつつある。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の新機種の登場に伴い旧機種の価格低下が予想されるなかで、高くても欲しいものを購入する客と、安いものを購入する客の選択範囲が広がり、売上が向上する。
	住宅販売会社（従業員）	・金利先高感があるため、土地、分譲住宅などの購入の決断が早くなる。	
	変わらない	百貨店（売場主任）	・紳士物ファッションの傾向が大きく変わらず、消費者に訴えかける材料に乏しい。
		スーパー（営業担当）	・周辺ではライバル店の出店予定があり、ますます競争は厳しくなる。
		スーパー（副店長）	・衣料、住居関連品などはバーゲン期になっても、客はより吟味して購入する。また、食品は鮮魚や青果商品の単価低下の影響が長引く。
		コンビニ（経営者）	・単価、来客数とも伸び悩んでおり、売上の上昇は期待できない。
		家電量販店（店員）	・サッカーワールドカップの開催によりテレビ、DVDレコーダーは好調に推移するが、パソコンの動きが鈍い現状から見て、全体としては前年並みとなる。
		乗用車販売店（経営者）	・景気は確かに明るくなりつつあるが、半面、商品や地域の格差がますます広がりにつつある。新規客の来店が極端に減少傾向にあり、不安である。
乗用車販売店（総務担当）		・県内市場が伸び悩んでおり、また新型車が当面投入されないことなど、明るい材料に乏しい。ショールームへの来客数も2、3月に比較して減少傾向が続く。	
一般レストラン（スタッフ）		・大手企業がバブル期のような採用状況にあるなかで、一部の店舗では採用が難しく、営業時間を短縮せざるを得なくなる可能性がある。また、原油価格の高騰であらゆるものが値上げ傾向にあり、経営的には現状維持で推移する。	
スナック（経営者）		・多忙な好況企業と年内にも廃業するという不況企業があり、両極端に広がる状態が相変わらず続く。	
観光型旅館（経営者）		・団体を中心に集客はあるが、宿泊単価、消費単価は相変わらず低いままで推移する。	
観光型旅館（スタッフ）		・予約状況は5月を除き前年を上回っている。	
通信会社（営業担当）		・携帯電話の新モデルが登場するが、価格も最初は高めであるため、客はしばらく様子見をする。	
テーマパーク（職員）		・周辺の宿泊施設では上向きの情報も聞かれるが、当社の現状から見て大きく変わらない。	
住宅販売会社（従業員）	・新築部門は伸び悩み、またリフォーム部門は現在の受注引き合いから見て順調に推移するが、全体では前年比横ばいで推移する。		

		住宅販売会社（総務担当）	・金融情勢等による住宅建築の上昇傾向があっても一過性のものであり、客の購入判断は変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者） 百貨店（営業担当）	・商店街の百貨店が撤退した影響が徐々に出てくる。
		百貨店（営業担当）	・身の回り品、家具、インテリア商品は現状維持で推移するが、婦人衣料は買い控え傾向が続き、前年に比べて苦戦する。
		百貨店（営業担当）	・婦人服のブランド物はジャケット、スカートとも例年より細く短めのサイズが多いため、客に戸惑いがみられる。また、マイカーを持つ婦人客も多いため、ガソリン代の値上げは今後の買物に影響を及ぼす。
		スーパー（総務担当）	・ガソリン代の値上げが見込まれるため、レジャーや関連ファッションなどの売上不振が懸念される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・寒さの反動で一気に暑くなり、春物衣料を飛び越して夏物に動く。加えて、シーズン前からのバーゲンや値引き合戦の常態化で、プロパーで売れる時期がなく、適正な利益が得られない状況が続く。
		スーパー（店長）	・6、7月には周辺で大手3店のオープンが予定されており、極めて厳しい状況となる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	金融業（融資担当）	・各社の3月期決算の数字が出始めているが、この内容を見ると今後は確実に良い方向に進む。しかし、原油高騰の影響に関しては不透明である。
		不動産業（経営者）	・2、3か月先には明るい不動産情報がいくつかみられる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・原油の値上げに伴い、重油を始め糊剤、油剤などの値上げがめじろ押しで、収益面での悪影響が懸念される。値上げ交渉を始めているが、先行きは厳しい。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・受発注の量はあまり変わらないが、原油高騰によるガソリンや原料の値上げが心配である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・1～3月の受注がハイペースであったため、やや一服感が出る。また、大型特殊機から中・小型汎用機へのシフトがみられる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡の価格自体は下げ止まっている感があるが、仕様は複雑になりつつある。また、今後の受注量もそれなりに動いており、当面は現状レベルで推移する。
		輸送業（配車担当）	・荷動きは徐々にではあるが、良くなっている。しかし、5月には軽油の値上げが決まっており、この負担増により全体としては変わらない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・いくつかの小売関連業種で前年以上の伸びがしばらく続く。
		司法書士	・新会社法施行に伴う会社設立の話と同様に、会社解散の話も多く、先行きはどちらとも言えない。
	やや悪くなる	輸送業（配車担当）	・ここ2、3年、コストダウンに努めてきたが、今回の原油高騰による燃料の値上げはこれを上回っており、業界はますます厳しくなる。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・受注高は上向きであるが、価格競争が一段とエスカレートする傾向にあり、協力業者の施工能力も手一杯のため今後のコストアップ要因となる。先行きの見通しは厳しい。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員） 職業安定所（職員）	・質の高い人材を要求されるが、経験不足で折り合わない。
			・有効求人倍率は30か月以上にわたり前年を上回っている。また、退職中の新規求職者が増加しているが、これは景気回復を感じてより良い労働条件を求める行動の表れとみられる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・多忙な企業とそうでない企業の格差は大きく、この溝は今後しばらく埋まらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・継続的に募集する企業及び今年新卒の採用ができなかった企業では、社員の高齢化による若手社員の補充募集の動きが目立つ。加えて、企業側では募集しやすいタイミングを計っている傾向があり、一概に景気の良さを反映した増員募集とはなっていない。
	職業安定所（職員）	・原油価格の高騰により原材料費等が値上がりし、収益を圧迫している企業があるため、労働条件の改善等は見込めない。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-